



# 平成26（2014）年度 事業報告書

## 1 はじめに

平成26年度（2014年度）は、全日本大学対抗選手権自転車競技大会は修善寺の日本サイクルスポーツセンターで実施され、伊豆ベロドロームは開設以来最大の観客で埋まりました。全日本学生ロードレース・カップ・シリーズは前身である東日本学生クリテリウム・シリーズ創設から10年目を迎え、安定期にはいつてきています。全日本学生トラック・レース・シリーズも開催数を増やすとともに、参加資格取得のタイムレースと競技経験向上のポイントレース等のバランスをとり、トラック競技やロードレースにおけるスピード面での強化に貢献しています。普及啓発活動においては、警視庁と連携した「モデルサイクリスト事業」の実施による交通安全プロモーションを前年に引き続いて推進しました。

## 2 加盟校数・登記選手数等の推移

登記選手数は2014年度は595名と前年対比では微増ながら、過去最高記録更新となりました。加盟校数については、2校の新規加盟がありましたが、3校の今年度未登録がり、1減になりました。近い将来に100校・1000名を目標としているところではありますが、引き続き加盟校・登記選手増加に向けた努力が必要であります。部員数の少ない加盟校が加盟を継続しやすくする施策（一定の指導・運営ノウハウの供与など）と、加盟校空白都道府県での新規加盟校発掘対策が必要と考えられます。

西暦	平成	加盟校	男子 登記 選手	女子 登記 選手	登記 選手 計	評議 員	賛助 会員	審判 登録 者数
1995	7	60			570	264		140
1996	8	59			517	270		114
1997	9	59	479	38	517	261		
1998	10	59	441	34	475	270		
1999	11	58	461	31	492	278	83	135
2000	12	58	449	31	490		81	180
2001	13	62			412	317	85	176
2002	14	61			386	323	79	151
2003	15	62			397	323	110	148
2004	16	55	429	32	461	323	99	133
2005	17	57	395	33	428	323	76	144
2006	18	60	469	23	492	349	89	161
2007	19	59	505	33	538	351	88	154
2008	20	54	498	22	520	326	83	128
2009	21	49	521	25	546	328	77	125
2010	22	53	531	30	561	355	59	121
2011	23	54	552	30	582	354	63	92
2012	24	56	552	33	585	354	61	98
2013	25	54	555	31	586	357	66	90
2014	26	53	559	36	595	352	60	100

参考：JCF登録競技者数：7,081名(2015年3月)

## 2 大会の実施と参加者の推移

本年度事業日程に則り、下記の通り諸大会が実施されました。大会等当連盟主催事業への参加者数のべ人数は6,000名を越え、ここ数年増加を続けています。新規に始められた大会が定着するとともに参加者数が増えてきましたが、既存の個々の大会はそれぞれの受入キャパシティの限界に達してきており、参加者総数の増加にはさらなる大会数の増加が必要な状況です。

年間を通じた大会数・参加機会の確保は競技活動の基本であり、引き続き各都道府県連盟や地方自治体との連携、協賛企業の協力を仰ぎながら、学生競技者の競技参加機会確保につとめ、同時に開催地域における自転車競技振興への寄与を図っていく必要があります。

平成26年度(2014年) 日本学生自転車競技連盟 事業実施実績表 (Ver.1. 1)												
月	日	曜日	大会名等	区分	種別	男子	女子	OPEN	合計	動員数	プログラム印刷枚	競技役員
2014年												
4	2	水	第1回理事会	会議								
4	5	土	全日本学生TRS第1戦	主催 トラック	132	8		140				
4	12-13	土・日	全日本学生RCS第1戦 菓の花畑山ラウンド(ヒルクライム+クリテリウム)	主催 ロード	161	1	1	163	300			
			同上第2日		161	1	1	163	300			
4	26	土	第16回 全日本学生選手権クリテリウム大会	主催 ロード	102	5		107	250			
5	3-4	土・日	第34回 西日本学生選手権トラック自転車競技大会	主催 トラック	97	2		99	150			
			同上第2日		97	2		99	150			
5	10-11	土・日	第54回 東日本学生選手権トラック自転車競技大会	主催 トラック	175	10		185	300			
			同上第2日		175	10		185	300			
5	17	土	全日本学生TRS第2戦	主催 トラック	117			117	200			
5	17-18	土・日	全日本学生RCS第2戦 第16回修善寺オープンロード+女子修善寺カップ	主催 ロード	12	2	2	14	80			
			同上第2日		263	12	2	277	400			
5	25	日	第53回 全日本学生選手権 チーム・ロード・タイムトライアル大会	主催 ロード	142			142	300			
6	15	日	全日本学生RCS第3戦 クレフィール湖東クリテリウム	主催 ロード	99	3		102	200			
6	7-8	土・日	第30回 全日本学生選手権個人ロードレース大会	主催 ロード	3	15	18	21	300			
			同上第2日		158			158	250			
7	5-6	土・日	第55回 全日本学生選手権トラック自転車競技大会	主催 トラック	226	16		242	350			
			同上第2日		226	16		242	350			
7	13	日	全日本学生RCS第4戦 犬町美術ロードレース	主催 ロード	210			210	500			
7	20	日	全日本学生TRS第3戦(記録会)	主催 トラック	98	7		105	150			
7	26	土	全日本学生RCS第5戦 お台場サイクルフェスティバル海岸クリテリウム	主催 ロード	164		22	186	1,000			
8	2-3	土・日	全日本学生RCS第6戦 白馬クリテリウムラウンド	主催 ロード	142	10	6	158	200			
			同上第2日		142	10	6	158	200			
9	28-31	木～日	文部科学大臣杯 第70回 全日本大学対抗選手権自転車競技大会	主催 トラック	201	18		219	500			
			同上第2日		180	18		198	500			
			同上第3日		178	800		978	800			
			同上第4日		183	24		207	1,000			
9	6-7	土・日	全日本学生RCS第7戦 レモンアライランドレースしまなみ海道瀬戸内くちじまラウンド	主催 ロード	67			67	3,000			
			同上第2日		67			67	1,000			
9	14	日	全日本学生RCS第8戦 山形村ヒルクライムラウンド	主催 ロード	44	2		46	200			
9	15	月	全日本学生RCS第9戦 けいはんおサイクルロードレース	主催 ロード	66			66	100			
9	20-21	土・日	全日本学生TRS第4戦(オムニアム)	主催 トラック	14	1		15	70			
			同上第2日		14	1		15	70			
10	5	日	第50回 全日本学生自転車競技トラック新人戦・西日本大会	主催 トラック	63	2		65	100			
10	5	日	第50回 全日本学生自転車競技トラック新人戦・東日本大会	主催 トラック	99	6		105	200			
10	25	土	全日本学生TRS第5戦(東京都選手権併催)	主催 ロード	33	9		42	100			
11	2	日	全日本学生RCS第10戦 第26回全日本学生個人ロードTTT自転車競技大会	主催 ロード	111	8		119	300			
11	8-9	日	第20回韓対抗学生自転車競技大会	共催 トラック	20	10		30	150			
			同上第2日		20	10		30	150			
11	16	日	全日本学生RCS第11戦・浮城の町行田クリテリウムラウンド	主催 ロード	290			290	500			
11	30	日	第28回東京大学自転車競技大会	後援 トラック	70	10		80	200			
11	30	日	第50回西日本大学対抗自転車競技大会	後援 トラック	61	3		64	100			
12	7	日	全日本学生TRS第6戦	主催 トラック	81	6		87	150			
12	14	日	全日本学生RCS第12戦・埼玉クリテリウム行田第1ラウンド	主催 ロード	131			131	250			
2015年												
1	11	日	全日本学生RCS第13戦・埼玉クリテリウム行田第2ラウンド	主催 ロード	115			115	200			
1	18	日	全日本学生TRS最終戦	主催 トラック	40	4		44	100			
1	25	日	全日本学生RCS第14戦・埼玉クリテリウム行田第3ラウンド	主催 ロード	108			108	200			
2	22	日	全日本学生RCS第15戦・埼玉クリテリウム行田第4ラウンド	主催 ロード	118			118	200			
3	8	日	全日本学生RCS最終戦 第九回明治神宮外苑大塚クリテリウム	主催 ロード	222	14	62	298	8,000			
					5,665	292	127	6,084	24,020			2,040
※「主催」と表示のあるものが本連盟主催事業です。併催地・日程は事情により変更となる可能性があります。 ※後援・共催事業・本連盟推薦出場のある大会、本連盟登記選手の参加可能性の高い他連盟主催大会を記載し、細字で参考表示してあります。日程・開催地は変更になることもありますので、主催者にご確認ください。												
内訳：RCSロードトラック・シリーズ、TRSロードトラック・シリーズ、日本学生自転車競技連盟												

### 3 選手権大会の開催

#### ・全日本大学対抗（インカレ）：

静岡県伊豆市・修善寺の伊豆ベロドロームでトラック大会を、5 kmサーキットにてロードレースを開催。日韓対抗代表選手選考会を兼ねました。総合成績は、男子は鹿屋体育大学が、女子は日本体育大学が優勝しました。多くの大会新記録と学連新記録が達成され、近年の学生競技者の競技水準向上が感じられる大会となりました。

#### ・全日本学生選手権個人ロードレース大会：

例年にならい長野県木曾郡木祖村 奥木曾湖・味噌川ダム周回コースにて男子181km、女子100kmで行われました。男子は朝日大学の秋田選手が、女子は早稲田大学の合田選手が優勝。男子は欧州派遣代表選考会のひとつとして位置づけられました。

#### ・全日本学生選手権トラック大会：

静岡県・伊豆ベロドローム（屋内250m）で開催されました。3つの大会新記録・1つの学連新記録が達成されました。また、本連盟が競技主管となった「寛仁メモリアル・ワールドグランプリ・トラック国際大会」と同時併行開催され、国際連盟ランキングポイントを獲得する機会を提供しました。

#### ・チームロード：

前年に引き続き埼玉県加須市・羽生市の利根川河川敷にて開催されました。走路幅が狭い等の弱点があるものの、首都圏からのアクセスに優れ多くの観客・応援者がかけつけました。スタート・フィニッシュ地点は昨年引き続き「おとおね童謡のふるさと室」で、補給地点を折返し近傍に設置され、上位8チームには車輪サポート用オートバイの伴走が用意されました。鹿屋体育大学が優勝しました。

#### ・全日本学生クリテリウム選手権：滋賀県東近江市で開催されました。

#### ・東西学生選手権トラック：

東西共に2日間開催として開催されました。東日本は震災後の改修工事が完成した福島県・泉崎国際サイクルスタジアムで、西日本は大阪・岸和田競輪場で開催されました。

### 4 強化・普及大会の開催

#### ・全日本学生ロードレース・カップ・シリーズ

シリーズ戦は2005年度2戦を皮切りに現在は15戦程度が行われ、明治神宮外苑大学クリテリウムを最終戦とするスタイルが定着しています。各地の都道府県連盟と連携して企画され、学生競技者の大会参加機会増大・地域における自転車競技活性化の両面において一定の成果をあげ、選手権大会の参加資格を持たない選手にとっては参加資格を得る機会数の増大、すでに参加資格を持っている選手にとっては実戦レースに於ける技量の高揚の効果があり、近年の新規加盟校・新規登記選手の増大にも寄与していると考えられます

当年度は、「明治神宮外苑大学クリテリウム」が9回目を迎え、オーストラリア・メルボルン大学チームも参戦して実施され、インターネットによる中継も実施されました。東京臨海部における「湾岸クリテリウム」も東京都心部開催クリテリウムとして定着しました。シリーズ戦は基本的に競輪補助金に依存せず、参加料・一般企業協賛金・開催地地方公共団体の協力により運営するスタイルをすでに確立していますが、今後の補助金減少に左右されずに学生競技者の走る機会を確保する努力が引き続き必要と考えられます。

## ・ロードカテゴリ制

ロード選手のカテゴリを実力別にクラス1, 2, 3, に分類し、選手権大会の参加資格者が決まる制度も定着してきました。これにより、本戦参加時までのレース経験度が上がり、選手権大会の安全性・競技レベルが向上しつつあると考えられます。クラス2の層の厚みが増したため、選手権大会でのエントリー資格はクラス2に限られるようになりました。クラス3は実力差の幅が広がりつつあり、特に春先の飯山ラウンドなどにおいてスキルアップ講習などの対応を行っています。

## 5 国際大会の開催・参加

- ・ポーランドで開催された世界大学選手権に選手団を派遣しました。女子ロードレースで早稲田・合田選手が7位に入るなど、一定の好成績を収めました。
- ・日韓学生対抗自転車競技大会が京都・向日町競輪場で開催されました。

## 6 会議・事業運営

2014年度役員により運営されました。大会準備会合は毎週水曜日夜の定例会議を中心に進められました。

日程に従い評議員会、理事会、委員会等を開催しました。

各大会の準備および当日の運営にあたっては、当番校からの学生委員も前年より多数の参加が得られるようになり、自分達ならびに後輩の走る機会を自ら確保する、という運営形態をより強固なものとしつつあります。

## 7 むすび

加盟校数・登録選手数など裾野の拡大は、一進一退を経ながらもゆるやかに進行しており、当年度は過去最高の登記者数を記録しました。海外における大会での本連盟学生選手ならびに本連盟出身選手の活躍も活発化しつつあります。

シリーズ戦の地方開催など、自転車競技の普及発展にも一定の成果を上げ、それがインカレへの注目度の高まりにも貢献し、継続可能な体制に向けて事務局運営の見直し、学生委員・当番校制度の活性化が定着してきております。多くの関係者が連盟運営にかかわりつつ、低コストで高度な運営が可能な体質獲得に向けて一層の努力を続けていくことが望まれところであります。

### 日本学生自転車競技連盟2014年度 最優秀選手

※トラック/ロード ランキング年間最上位者

男子トラック 近谷 涼(日本大学)                      ロード 徳田 優(鹿屋体育大学)  
女子トラック 齋藤 望(日本体育大学)                  ロード 合田祐美子(早稲田大学)  
全日本学生ロードレースカップシリーズ総合： 相本 祥政(法政大学)

### 日本学生自転車競技連盟 JAPAN INTERCOLLEGIATE CYCLING FEDERATION

東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育会館4階〒150-8050  
ホームページ : <http://www.remus.dti.ne.jp/>  
電子メール : [jicf@remus.dti.ne.jp](mailto:jicf@remus.dti.ne.jp)